

ヒューマン 上田

上田市人権啓発推進委員会

ヒューマン上田とは…

Humanとは、「人間の」とか「人間的」と訳されます。
一人ひとりの人権を大切にする明るい上田市であることを願い、
名付けられました。



「ともだち うれしい」 武石小学校 一年 ^{よしだ} 吉田 はるひ

特集

新型コロナウイルス
感染症と人権
～誰もがいやな思いをしないために～

もくじ Contents

- **特集** 新型コロナウイルス感染症と人権
～誰もがいやな思いをしないために～ ……2
- 上田市人権啓発推進委員会活動紹介 ……5
- 最優秀人権啓発作品 ……6

特集

新型コロナウイルス感染症と人権

～ 誰もがいやな思いをしないために ～

2020年からの新型コロナウイルスの感染拡大の中で
こんな差別が起こりました。

ワクチンハラスメント

ワクチン接種していない人が近くにいると不安だし、みんなが迷惑するよねえ。ワクチン接種するのが当然じゃないの？

不確かな情報や
うわさを信じるこんなコロナの時期に
県外に行って感染したらしいわね。
きっと遊びに行ったのよ。

感染者の自己責任？

感染するのは自己責任だから
感染した人が悪いよね。
周囲の人に迷惑をかけているから
責められるのも当然。

コロナ差別

エッセンシャルワーカーなどへの偏見

お医者さんや看護師さんが、自分の近くにいると思うと不安があるね。
その子どもたちが保育園に来るのはやめてほしい。

こんな経験をした私たちが学んだこと

① 誰もがみんな違った事情をもっている

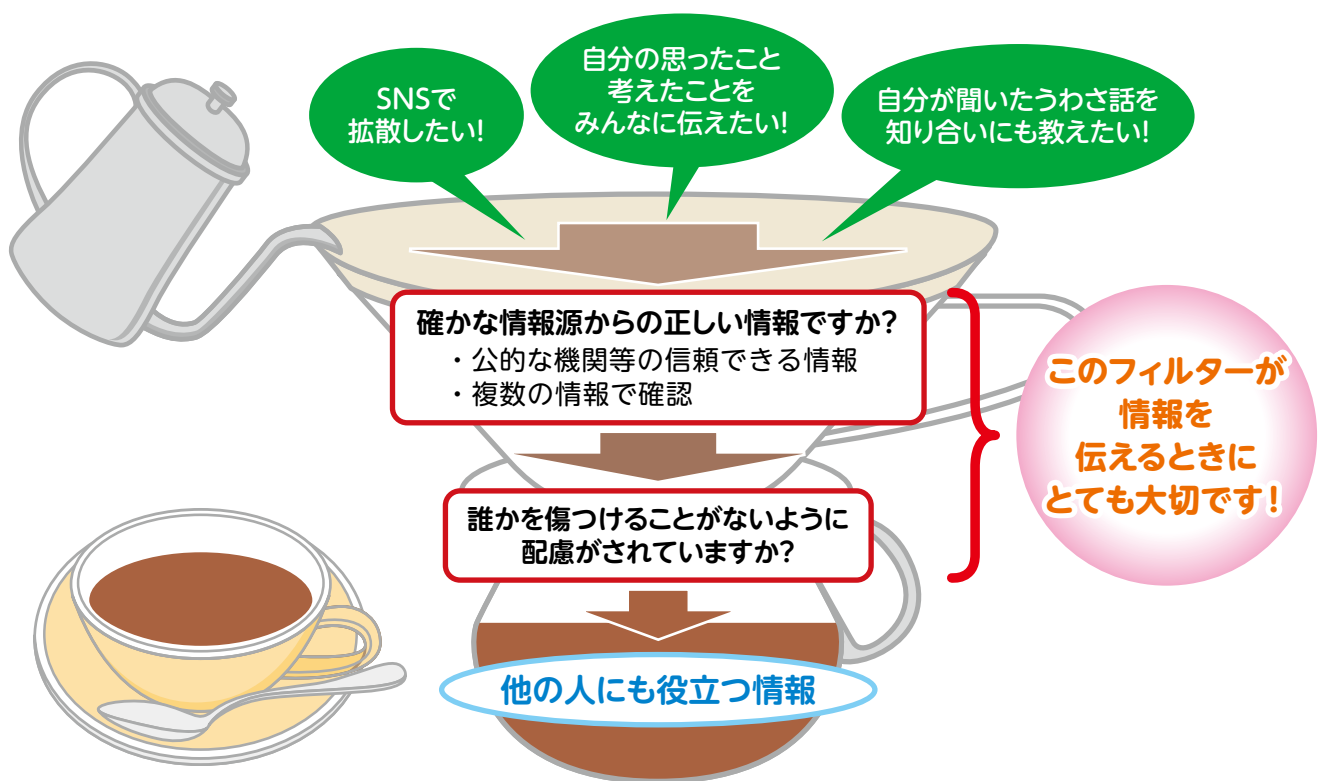
ワクチン接種が進む中で起きやすい「ワクチンハラスメント」

接種を済ませた人
これから接種をする人
(社会の中では多数派)みんな接種しているのに
どうして？

接種の強要

接種できない人
接種しない人
(少数派)身体的な事情
抱えている大きな不安
個人的な事情は話したくない周囲の人には、その人の事情や心情は分かりにくいものです。
多数の人が少数の人を責めたり、
接種を強要したりすることにならないように気をつけたいですね。

② 情報発信と情報拡散の重み



③ 支えられて生活している私たち

※ここにあげたのは一例です



私たちの安心・安全な日々の暮らしは、本当に多くの人のおかげで成り立っていることを実感します。どれも欠けても困ってしまいます。支えてもらっていることに感謝したいですね。

④ 「感染するのは自己責任」は正しいのでしょうか？

今回の新型コロナウイルスは、誰にでも感染するものです。ですからコロナウイルスが収束しない限り安心して暮らすことはできません。自分が感染する可能性が常にあるということです。

「感染は自己責任」として責められるような雰囲気があれば、感染が落ち着いてきたとしても、感染した時の批判を恐れて自由に行動を起こせません。

感染することを、その人のせいだと責めるのは差別です。

「感染=自己責任」と考えるのではなく、社会全体で感染症と闘っていきましょう。

今回、私たちは新型コロナウイルス感染症を通じて多くのことを学びましたが、コロナ以外の差別や偏見についても、同じことが起きていたといえそうです。

どんな差別や偏見もなくしていくために 「大切にしたい3つのこと」

調べたり
考えたりして、
本当のこと、
正確なことを知る

「自分は差別をして
しまうかもしれない」
と考えて、
学び、行動する

個人の事情を
お互いに大切にする

コロナをきっかけに 改めて差別について考える社会になってきています
自分と同じように 人それぞれの事情にも心を寄せて
人にやさしい社会にしていきましょう！

いのち・愛、そして絆を大切に作るまちづくり

上田市人権啓発推進委員会 令和3年度の活動紹介

上田市人権啓発推進委員会は、各団体の代表や自主的に入会した約110名の市民で構成されています。当委員会では、お互いの人権を尊重し、あらゆる差別をなくそうと学習や市民への啓発活動を行っています。より多くの皆様に当委員会を知って参加していただきたく、この1年間の主な活動をご紹介します。



上田市人権啓発推進委員会 会長 土屋 彰

今年も新型コロナウイルス感染症の情報に一喜一憂しながら過ごしました。上田市人権啓発推進委員会が大事にしている啓発活動も、規模を縮小したり、別の活動を模索したりして、できる範囲で実践してまいりました。このような時期だからこそ、私たちの日常生活の中で見え隠れする感染者への嘲笑のような人権侵害について、お互いの立場や事情を理解するような視点で考えることが大切なことだと思います。

「ウイズコロナ」という現状の中から感性を高めてきた自分自身を認め、人の持つ優しさに信頼を寄せながら、市民の皆様とともに豊かで明るい社会を目指して頑張っていきたいと思えます。一人ひとりの人権を尊重し温かな絆に結ばれた社会を求めて、一歩ずつ共に歩みを進めていきましょう。

人権啓発担当者研修会

令和3年11月27日

市内教育関係団体等からの参加者を迎えて、今年のテーマを「想うつながる 一歩ふみだす」として、人権啓発DVD「イメージネーション」をみました。内容には、学校でのいじめ、同和問題、発達障がいなどが扱われていました。その後の分散会では、DVDをみた感想などをきっかけに話し合いが行われました。ご自分が学校で無視された体験から、学校でのいじめは、「あそぼう！」の一言をかけてもらうだけでも救われるという話がありました。同和問題や発達障がいについては、基本的なことを知らないままに差別してしまうこともあるので、学んでいくことが大切だという意見が出されていました。1年ぶりの研修会は、とても大切な学びの場になっているようでした。



人権啓発担当者研修会

人権を考える市民のつどい

令和3年11月～12月

今年度はケーブルテレビでの放送による開催となりました。

◆「市民へのアピール」人権啓発作品の紹介

(11月1日から8日まで上田市行政チャンネルにて放送)

「女と男うえだ市民の会」からの市民へのアピール、令和2年度の小学生等の人権啓発ポスターと標語の最優秀作品の紹介をしました。

◆講演「転んだら、どう起きる？」講師：宇梶 剛士さん(俳優)

(11月28日上田ケーブルビジョン、12月5日丸子テレビ放送にて放送)

母親が北海道のアイヌ民族出身でアイヌの人権問題に取り組んでいたことから、アイヌ民族が差別されるようになった歴史的な経緯をわかりやすく話していただきました。私たちはアイヌの人たちの置かれている立場や人権についてもっと関心をもつことが大切だと感じました。



宇梶さんご自身の生い立ちについてもお話をいただきました。高校球児の夢を追いかける生活に挫折し、非行に走り、暴走族の総長となり、挙句の果てに少年刑務所に収監されてしまいます。しかし、そこから自分を見つめ直し、俳優の道を目指して人としての生き方を変えていく姿からは学ぶことがたくさんありました。親との絆、人との出会いが、自身を変えていくきっかけとなった宇梶さんのお話から、私たちは困難に立ち向かう勇気をいただいたように思います。

人権週間～街頭啓発～

令和3年12月6日

東の雪雲の間からオレンジ色の朝日が射す中、「おはようございます」「行ってらっしゃい」と声をかけながらJR上田駅で街頭人権啓発活動を行いました。この啓発活動は上田駅のほか、市内各所で人権にかかわる団体が協力して毎年実施しているものです。市民に直接声掛けを行うことのできる活動として長年続けられてきました。

『「誰か」のこと じゃない。』と書かれたパンフレットを手渡すと、「ありがとうございます」と笑顔で挨拶を返してくれる方や、バス待ちの間受け取ったパンフレットを熱心に読んでくださる方の姿が心に残りました。



街頭啓発

人権作品審査

令和3年12月8日～令和4年1月6日

今年は693点の人権作品の応募がありました。どの作品も「人権を大切にしたい」という思いを文字や絵にして伝えてくれるとても素晴らしいものでした。

中にはタブレットを使って作成された作品もあり、工夫を感じ取ることが出来ました。

選ばれた作品は、人権啓発推進の活動のために活用させていただきます。

たくさんのご応募をいただき、本当にありがとうございました。



作品審査

令和3年度

最優秀人権啓発作品

上田市人権啓発推進委員会では、多くの方々に人権尊重への理解を深めていただくため、毎年、上田市教育委員会とともに人権啓発作品(作文・詩・標語・ポスター)を募集しています。

今年度も小中学生をはじめたくさんの方々に、応募していただきました。その中から最優秀作品に選ばれた作品の一部を紹介します。

受賞作品は、毎年2月開催の“うえだ人権フェスティバル”で展示・表彰をしていましたが、今年度は感染防止の観点から中止となったため、上田市ホームページ及び行政チャンネルで紹介をしています。

右のQRコードまたは上田市ホームページからぜひご覧ください。



▲QRコード

作文の部

世界中のひとりひとりが生きやすくなるために

後期人権旬間でハンセン病について学び、差別がどれほどひどいものなのか、改めて感じることができました。

ハンセン病とは、皮膚や末梢神経を侵す、らいによる感染症です。感染力は非常に弱く、特效薬のない時代は顔や手足などに変形をきたす後遺症が残りました。かつて日本では不治の病とされ、やがて患者の強制隔離が始まります。地域から患者をなくす「無らい県運動」も起き、患者は療養所に収容。さらに特效薬ができ治癒した後も退所できず、人権侵害が続いたそうです。これらは「ハンセン病は感染力が高い」といった誤った認識が広まり、偏見や差別が生まれたことよって起こりました。患者は、地方で家族が差別にさらされないよう、と本名を名乗れず「園名」を使い続けています。一度感染したら自由に結婚したり、子どもを作ったり、普通に生活をするのもできない、そして死んでもお墓に入れない、そんなことを聞いてとても心がいたみました。患者さんは何も悪くないのに、社会の目を恐れて故郷にも帰れず、過酷な人生を送ってきたことを知り、本当に差別は許せない、と強く思いました。

今、世界では新型コロナウイルスが流行しています。少しずつ身近なものになってきて、ワクチンの接種も進んでいますが、まだまだ怖さがあります。その怖さは、自分の健康の心配と、それよりも、もし感染してしまったら、濃厚接触者になってしまったら、周りからどんな風に思われるんだろう、という不安からくるものの方が大きいです。みんな、やりたいことも我慢して、感染対策を徹底して、ウィルスの怖さを分かっているからこそだと思えます。

最近SNSを利用することが増え、日本には、世界には本当にいろいろな人たちがいることを学びました。「多様性」という言葉もよく耳にします。病気を持っている人、障がいがある人、国によって生活が大きく異なるし、ひとりひとり考え方も全く違います。逆に言えば、自分と全く同じ人はいません。私もそうです、自分とは違う、普通とは違うと思う人を見ると、つい避けてしまったり、あまり良い印象を受けなかったりしてしまいます。でも、今仲の良い友達だつて私と全く同じ考えを持っているかといっ

第八中学校二年 上原 來実

たらそうではありません。お互いに相手のことを理解し合つて、だんだんと受け入れられるようになって、仲良くなっていきました。これと同じことだと思えます。差別や偏見をなくすためには、世界中の誰もが生きやすい世の中にするためには、正しく理解することが何よりも大事なのではないのでしょうか。SNSでは、自分自身のことや考えを発信している人がたくさんいます。それに対するコメントには、温かい言葉もあれば、心ない言葉が見られることもあります。人はみんな、生まれたときから人権を持っています。それを侵害させないために、やっぱり正しく理解する必要があります。周りに惑わされず、自ら気づき調べることが大切です。このコロナ禍で、人によって様々な考え方があると思います。ですが、もう二度とハンセン病のときのような差別に苦しむ人を出してはいけません。みんな助け合つて「多様性」を大切にしたい世界になってほしい。

これが、ハンセン病について学び、患者の人生や思い、苦しみを知った私が思ったことです。

作文の部 最優秀賞 受賞者

ぼくはてん校せい

西小学校一年 梅林 悠翔

友だちの言葉はすごい!

東小学校二年 竹花 美晴

羊さんとくらす

三年東組の仲間たち
塩川小学校三年 滝澤 凜

大切な仲間

西内小学校四年 田中 莉恋

「幸せ」

塩田西小学校五年 元島 実喜

願いをのせて

神科小学校六年 土野 星空

平等に教育を受けられる世の中に

第一中学校一年 久保田陽音

世界中のひとりひとりが

生きやすくなるために

第八中学校二年 上原 來実

三分間トーク

依田窪南部中学校三年 兒玉 実檜

「人生はプロジェクト仕事も

子育ても『私らしく』を聞いて

丸子修学館高等学校二年 井上 李奈

標語の部

みんなだね

たすけあったら すてきだな

北小学校 一年 二木 葵

いじめはね

やられた人は わすれない

丸子北小学校 二年 依田あかり

「ありがとう。」

言われたあなたに「ありがとう。」

丸子北小学校 三年 中村 紗那

いいところ

いっぱいさがそう わたしから

神川小学校 四年 小山芽衣南

だれだって

同じ重さの 命なの

塩田西小学校 五年 野川 命意

考えて！

みんなちがって あたりまえ

神科小学校 六年 柳澤 蒼

全員で

いじめの根っこを 引っっこ抜け

丸子北中学校 一年 堀内 啓佑

作ろうよ

誰でも入れる 仲間の輪

丸子北中学校 二年 櫻井翔太郎

好きでいたい

私もあなたも そのままを

第六中学校 三年 赤尾 美月

寄り添う気持ち

そこから深まる 心の絆

シナノケンシ(株) 早津みどり

詩の部

わたしのおじいちゃん

西小学校 一年 吉 美月

おじいちゃん

わたしのことを

「みっちゃん。」

とよんでいました。

わたしを見ると

いつもわらってくれました。

おじいちゃん

かみひこうきづくりの名人でした。

ちらしやしんぶんしをつかって

いろいろなかみひこうきを

つくっていました。

とってもよくとんで

すごいなとおもいました。

このあいだ

おじいちゃん

お空にいつてしまいました。

わたしのことをお空から

ずっと見ているとおもいます。

「みっちゃん。」

おともだちと

なかよくやっっているか。」

とおじいちゃんのかえが

きこえてきます。

詩の部 最優秀賞 受賞者

わたしのおじいちゃん

西小学校 一年 吉 美月

人の気もちがわかったとき

傍陽小学校 二年 堀内 遥陽

ありがとう

川辺小学校 三年 堀内 美里

わたしの思い

南小学校 四年 黒坂 凜

「本当の気持ち」

川西小学校 五年 遠藤 理恩

普通ってなんだろう

神科小学校 六年 金子 桃衣



ポスターの部



なかよく あそぼう
東小学校 二年 弓掛 珠鈴



心を広げよう
西内小学校 三年 黒岩 紗希



みんな みんな 友達
塩田西小学校 四年 竹澤 幸



その言葉 本当に言ってもいいの?
丸子北小学校 五年 稲垣 晴香



一人一人を大切に
東小学校 六年 高島 友花



その行動誰かを傷つけてない?
塩田中学校 一年 元島 結生



「助けてい」 その想いを行動に
塩田中学校 二年 室賀 日和

表紙について
令和3年度の人権啓発ポスターの部において最優秀作品に選ばれた作品です。
カラフルな色づかいがみんなの気持ちを明るくしてくれる作品です。上田市人権啓発推進委員会では、市民の皆様お一人おひとりの個性が輝き、笑顔があふれる住みやすい上田市になるよう、心をつなげて人権啓発に取り組んでいきます。



認め合う心に 笑顔の花が咲く
塩田中学校 二年 依田 恵

上田市人権啓発推進委員会へのご意見、入会申込み(年会費500円)は事務局まで。

《事務局》上田市教育委員会 生涯学習・文化財課
TEL.23-5197